

平成24年6月4日 第2回(通算148回)運営幹事会議事録

日時：平成24年6月4日 16:30-18:00

場所：土木学会 A 会議室

出席者：小長井委員長，清野副委員長，藤原幹事長，山本，富田，秋山，高橋，濱野，片岡，吉見，尾崎（事務局）

配布資料

幹 148-01 地震工学委員会・平成24年度第1回(通算147回)運営幹事会議事録案

幹 148-02 運営幹事会の役割分担

幹 148-03 小委員会活動補助費申請状況

幹 148-04 第2回研究会企画案について

幹 148-05 年間スケジュール(案)

議事

1. 前回議事録の確認

・藤原幹事長より資料「幹 148-01」に沿って前回議事録が説明され，誤字・表現の修正の後，承認された。

2. 報告・審議事項

(1) 幹事の役割分担

・藤原幹事長より資料「幹 148-02」に沿って運営幹事会の役割分担が説明され，確認・承認された。

(2) (3) 予算通達状況，小委員会活動補助費申請状況について

片岡幹事より資料「幹 148-03」に沿って小委員会活動補助費案が提示された。7件の予算申請があり，内訳は旅費，会議室費，資料印刷費，講師謝金。申請合計額は93万円であり，当初予算の55万円をオーバーした。配分案として以下の3案が示された。

1. 55万円を申請額の割合で按分

2. 20万円を上限として申請額を積む→79万円

3. 申請額から20万円超過分をカットした後に按分して55万円にする

以下の意見が提示された。

- 地震工学委員会予算は昨年度も余り気味である。研究小委員会への配分総額は55万円よりも上積みしても良いのではないか。(秋山幹事)
- 行事の還付金はまだ決定/配分されていない。研究発表会や行事の黒字額に基づく拡充支援金が追加されるはず。(尾崎幹事)
- 予算があるのなら共通小委員会に優先的に配分すべきではないか。(秋山幹事)
- コンクリート委員会、土木計画学委員会では行事の黒字額に基づく拡充支援金が多い。(尾崎幹事)
- 予算配分のルール作りが必要である。(秋山幹事)

議論の結果、小委員会の活動補助費配分は以下の方針に決定した。

1. 委員会の予算額につき尾崎幹事と山本幹事とで連絡を取り合う。予算額決定後、配分案を作成し提示する。予算額決定は7月頃と想定される。
2. 配分の方針：共通委員会の必要額を優先して配分。剰余分について研究小委員会に申請額を尊重して配分。

(4) 研究企画案について

濱野幹事より資料「幹 148-04」に沿って第2回研究会の案が示された。

- ・開催時期：9月10日の週

内容は以下の2案。

- ・案1) 論文賞等受賞者記念講演。
- ・案2) 東日本大震災の教訓、復旧・復興計画、土木技術者への期待等に関する行政サイドからの講演。(講演者選定が課題)

以下の意見が表明された。

- 行政サイドはマネジメント中心。技術的内容の講演は難しいかもしれない。(小長井委員長)
- 小長井委員長、山本幹事から、現場の話をしてくださる方について心当たりはある。
- 東日本大震災の話だと、全国大会での研究討論会などと内容が重なる可能性がある。

議論の結果、以下の方針に決定した。

- 1) 第2回研究会は論文賞等受賞者記念講演、第3回研究会は東日本大震災の現場の話とする。

(5) 全国大会について

富田幹事より以下のとおり報告があった。

- ・ 研究討論会は申請 4 案が全て採用となった。
- ・ 準備スケジュール，必要書類等を尾崎幹事が調べ，富田幹事に連絡，その後，小委員会に連絡する。

研究討論会の経費負担に関し次の情報が寄せられた。

- 今までは研究討論会の必要経費（上限あり）は全国大会予算から出ている。
- 今年は 8 月 3 日までに提出された研究討論会の原稿は 100 部を上限として全国大会経費で印刷される。

（6）地震工学研究発表会について

吉見幹事より準備状況につき説明があった。

- ・ 会場は予約済み。
- ・ 土木学会誌 7 月号に会告掲載予定。
- ・ ホームページでは 7 月末から受付開始予定。
- ・ 吉見幹事は 7 月末から 10 月上旬まで不在となるが，ウェブを介して準備を進める。

小委員会成果報告に関し，投稿・参加費用を徴収すべきか意見を頂きたい旨依頼があった。

議論の後，以下の方針が示された。

- 1) 研究発表会への投稿料は徴収しない。ただし，出席者から参加費（聴講料）は徴収する。
- 2) J-STAGE 論文集への委員会成果報告の掲載料については，ペンディングとする。小委員会経費から論文集投稿料等を出すことに関して問題がないか尾崎幹事が調べる。

（7）平成 24 年度論文賞選考の動き

高橋幹事より報告。

- ・ 論文賞の選定プロセスはまだ動いていない。昨年度は 9 月 30 日が応募締切であり今年度も同様なスケジュールが想定される。内規により締切一ヶ月以上前に論文賞選考委員会を開催する必要がある。

（8）年間スケジュール

藤原幹事長より資料「幹 148-05」に沿って年間スケジュールの説明があった。

- ・ 地震工学委員会の内規により論文賞選考委員会は 8 月末に開催する必要がある。これに併せて拡大運営幹事会，研究会を開催したい。

→会議室（講堂）の空き状況から、8月24日に決定。研究会、13:30～その後拡大運営幹事会、論文賞選考委員会を開催する。

3. その他

（1）論文賞選考に関わる地震工学委員会内規の修正について

論文賞選考に関わる内規：現在の「1ヶ月以上前までに」を「1ヶ月前後を目処に」に変更する提案を次回総会にかける。

（2）研究企画委員会の構造専門委員の後任人事について

奥井先生（鋼構造委員会）が任期満了。次順である地震工学委員会から1名推薦する必要がある。任期は2年間。

→清野副委員長を推薦。

（3）イタリアの地震（5/21, 5/28）について

高橋幹事より報告。収集した情報はホームページで共有する。今のところ学会で派遣等の動きはない。

➤ 信頼出来る在欧の研究者等に依頼して現地調査していただき、報告に学会の冠をかぶせることも可能ではないか（小長井委員長）。

（4）英文論文集について

高橋幹事より情報提供。第一回震災特集号への招待論文について地震工学委員会に推薦依頼がある。推薦者リスト案を作成する必要がある。一般投稿論文締切8月31日。推薦論文締切は9月末目処。投稿料は無料。英文校正は学会側で負担。

→小委員会向けに推薦者の情報提供願いの連絡メールを送付する（藤原幹事長）。情報提供を承けて幹事会で推薦者を決定する。

→執筆者のために、地震工学委員会サイト内にも英文論文集の情報を載せる。ただし、原稿募集の詳細は土木学会誌7月号にも掲載される。

次回日程：8月24日午後 土木学会講堂

（作成者：吉見）